

米國加州幼稚園における

自由選擇保育の實驗報告

紹介

子供の自由活動の尊重と云ふ事については、幼兒教育にたづまはる人々の、常に考へて居る事ですが、扱實際多人数の子供を一人で取扱ふ場合に、何處迄、子供の自由活動、自由選擇を許す事が出来るかは、いつも問題になる所です。最近(一九一六年九月以來)米國カリフォルニア州の幼稚園が、共力して、特に、子供の訓練の上から、在來の設定保育——保姆が立案して毎日の作業を限定して行く方法——を全くやめて、思ひ切つた、自由選擇の保育を實驗して居ります。其報告が近着の「ザ、キンダー・ガアテン、アノド、フアストクレート」に發表されました。「まだ實驗最中の事で決して完成したわけでない」と、報告者も斷つて居りますが、其大要を次に紹介致しませう。

一 自由選擇保育の實行の動機及目的

平素から獨立、自由を尊重する米國が、今後の大戦以來、一層この念を高めました。「子供の頃から其有する生活力全體を正しく、充分に、あらはし

得る様に導いて、自治獨立の人間をつくりたい」と云ふのが、この實驗の目的であります。『自分を支配する事の出来る人、自分を有りの儘に發表する事の出来る人、與へられたゞけの責任を充分に果し得る人——かう云ふ頼み甲斐のある、底力のある人間を社會に送りたい』と、この記事の報告者は申して居ります。其れには出来る丈、幼時から、大人の干渉、無理おしつけの這入つた訓練をせぬ様に、子供自身の經驗を尊重する様にさせたい。在來の幼稚園教育はどうも、大人の頭から割り出した計畫方法である、其の立案が、果してどれ位迄、子供に適するものであるか、疑はしい、其處で、彼等の自發活動を充分見るためには、お膳立てをしたものを持ち出すのでなくて、只、其

材料をならべて、子供自らにお膳立てをさせる、しかし其材料は今の所は在來の物を與へて、實驗の結果、子供に不適當だと解つたものは之を除き又彼等の自發活動による要求をよく觀察して、更に多く今迄保育材料になつてゐないものをも與へ且家庭生活と幼稚園生活を一層接近させる様にした、「一樣」「平等」と云ふやりかたを極力廢して、子供一人々々の個性を充分にのばしたい、しかも米國の要求する國民は、健全なる民主思想を有するものであり、従つて、又他を統禦し、導くと云ふ才あるものも、人民の中から、出なければならぬ、それには幼時から、各々の個性に應じて、その能力を充分のばして行く必要がある。

大體かゝる立脚點から、實驗が行はれました。

二 實驗の方法

(a) 先づ保育室の一隅に、子供に届く様な低い棚、及戸棚をつくる、其處に種々の保育材料及遊

具を整頓してならべて置く、

(b) 積木は通常の小さなもの（フレイベル物中にある）をませこせにして箱に入れて出して置く、決して、組にして、箱に入れたり、又は幼兒一人分をきめたりはしない、其外に大形の床上積木を箱に入れて置く、これは特にこの幼稚園が工夫したもので、(1)煉瓦形のもの——長さ八寸、幅四寸、厚さ二寸、(2)圓柱、(3)角柱、(4)三角柱の四種である。

(c) 保母は先づ、朝來ると、子供一人々と挨拶して、其子供の氣分を機敏にとらへて、各々の興味によく觸れる様に心掛ける。

(d) 保母は、日々の細かい保育課程を定めずに廣大なる範圍で計畫をたて、融通のきく心を持つて子供と接する様にする。

(e) 幼兒は、棚にある種々の材料の中から、各々の好むものを取り出して來る、此時に同じ製作（手技手工）をする子供は集つて、一つの小さい組

をつくる様にする、また製作をする子供は床上の敷物の上に坐つて初める、この小さい組が、一保育室内に幾つも出来る事になる、この時に保母は各兒の自由選擇の様子を見て、あまり容易なものを初め様として居る小供には「もつと難しい事が出来る」と云ふ暗示を巧みに與へる、しかし、決して「あなたは何々をなさい、出来るぢやないか」と云ふ様に命令はしない、何處迄も、暗示にとゞめ只、其能力を引き出す様に努める、ある場合には朝、保母が注意深く選んだお話を、きかせて、それが其日の製作の暗示ヒントとなる事もある、此時、保母は幾つかに分れた組の、何れか一つに交つて、また保母自身の計畫した製作を子供と一緒に、一心に初める、各組の幼兒は各々自分の選んだ仕事について、其計畫を一心に成就せんとする、其の製作は、どれ程永く續いても、かまはぬ、熱心にして居る者を、外の遊びに轉せしむる事なき様によく氣をつける。

かゝる方法で保育する事になると其計畫は日々に新たで、今日の案が翌日そのまゝ用ひられる事はなく、子供も先生も、毎日々々、新しい氣分で幼稚園に來る事になる。

三 實驗の結果

多人數の子供が、自由に、その製作なり、遊びなりを選擇する事になると、實行上、種々の困難が生ずるのである。先づ、

- (a) 保母は全然時間割をつくる事が出来ぬ、
- (b) 子供が好きなものを選ぶためには背の届く低い棚などの設備が、充分、必要である、又其處にある品物を、ゴチャ／＼にしないで、幼兒自ら整頓する様にし、又、使ひこなせる迄に、訓練する事は、なか／＼容易でない。

(c) 同時に幾組もの子供の群が出来、一つ／＼別々の事をしてゐるのであるから、保母は各組を注意深く觀察指導しなければならぬ。

(d) 或る子供は他の子供よりも、早くやめてしまふ、かゝる時、次の遊びや製作に如何に導くべきか、又未だ熱中してゐる子供達の妨げとならぬ様にするには如何に取扱ふべきか、これまた、難しい事である。

(e) 自由選擇によつて、子供の氣まぐれの心を増長させてはならない、其處で、那邊迄我々は「自由の方法」を許し得べきか、實際上この問題の解結に苦心するのである。

かゝる困難苦心は、あつても、又一方に在來の「お膳立て保育」で取扱はれた時には充分見出されなかつた子供の個性、其能力が充分發揮され、獨創的であり、人の命令を待たずして、進んで自ら取捨判断をする様になり、又、先生が幼兒に對しても一層信用をする事が出来る様になつた事等も思へばこの努力も決して無駄ではないのである、自由選擇の結果が、幼兒に氣まぐれな、落つかない習慣をつくりはせぬかと云ふ事は、兎角、心配

的になる事柄であるが、これについても、實驗の結果は、子供が自分で選び自分で計畫した事柄には案外に熱中するものである、と云ふ事に一層自信を持てる様になつた、また保母の方では、一度子供が選んだ事は其の朝は、それだけを完成する様に充分指導するものである、かくて不識の間に、獨立の習慣が出来て製作にも、遊びにも、落ちついて、安心して、取かゝる様になる。

尙この實驗の結果、喜ばしき現象と思はれる方面を列記すれば

(1) 子供が疲れると云ふ事を知らなくなる（一體疲れると云ふ現象は熱中して、遊び過ぎた場合よりも、彼の充ちつた生活力を適當に用ふる事が出来ず、且、他よりの無理強ひを感じた時にあの微妙な、寧ろ繊弱な神經細胞が損はれるのであらう）

(2) 自由の選擇、自由の製作により、知らず知らず獨創工夫の機會を多く與へる、

(3) 保育が厳格な組織のもとに行はれないで、變化に富むものとなつて来る、また謂ゆるフレールペルの恩物のごとき大人の頭から等級をつけた保育材料が、幼兒にとつては、一樣な玩具として取扱はれるものである事が明瞭になつた。

(4) この實驗の結果、保母が一層子供の能力に對して信用を置く様になり彼等の自尊心、自恃心のつよさに驚かされる、(一體、教育者が被教育者を信用しない程教育上悲しむべき事はない)

次にやゝ考慮を要する點は

(1) 保母が用意した自然物(木の實、花、葉等のもの)は一向に、子供の注意をひかず、その儘、棚に残つて居た事。

(2) 子供は、お話の本にある挿畫を、彩色する事輪廓をかく事、其の繪を切り抜く事、などを一向に要求しなかつた事。

(3) 子供は、音楽を奏してくれと云ふ事を、一度も云はず、又、歌ひたい、と自ら云ひ出した事

も殆んどなかつた事。

(4) また、彩色の普通の形式のものや、花、圖案などを彩る事は好まず、それよりも、一層大仕掛ないろく、合同したもの、例へば玩具の荷車を塗る如き、又は紙にしても、大きな紙をぬる事を好んだ事。

以上の實驗は、皆が共同して試みて居るので、隔週の職員會には、各々其經驗を自由に語りあひ新しい試みの發表もし、失敗についてのいろくの議論もし、以て互ひに勇氣づける様にする、又隣區の幼稚園關係者などを招待しては、意志の疎通をはかり、批評も交換し、かくて實驗の、一層有意義、有功ならん事をつとめる、この會の記事は、細かく記載して、後の參考にする様にして居る。

尙思ひがけない結果とも考へられる事を列記して見ると、

(1) 子供が、自分で棚から自由に品物を取出す事であるから、保姆が無駄な手数を大いにはぶく事が出来、しかも反つて、子供には獨立自治のよい習慣をつくる事になる。

(2) 一人の保姆で多人數の子供を、充分に取扱ふ事が可能になる。

(3) 子供の自由活動、自己發表が盛になり、新しい工夫をするから、保育を一層有功ならしめんための多くの参考資料を得る事が出来る。

(4) 幼兒は幼稚園の音楽をこのまぬ、また彼等から進んで歌ひたいと云ふ事を云ひ出さない、これは全く意外な結果とおもはれる。

(5) 子供は自由に選擇して、製作もし、遊びもして居るから、參觀人が來ても、すぐに其の熱中してゐる子供の方に注意が引つけられる、そこで先生は後の方に引込んでゐる様になる。

* * * * *
以上が、先づ報告の概略ですが、これは私共幼稚園にも、大に、參考すべき方法であると思ひます、ことに、豫期しない結果——即ちこの實驗の

副産物——としてあげられて居る事の最後の項は餘程意味ある事かと思はれます、私共お互が、參觀する時にどうも、先生のする事を観るのを目的とする傾向があります、保姆のする談話、その作業の指導振りを観やうと初めから計畫して出かれます、子供が如何によく遊ぶか、如何に熱中するか、かゝる方面は先づ第二位におかれ易いと思ひます、しかし、この加州における實驗は「先生がひつこんでゐて、參觀人が、小供自身の活動に氣をとられる」と云ふ結果を特に記して居りますのは、我々に思ひあたる所がある言葉の様に響きます、もつとも、此の實驗の報告者は「この實驗をしてゐる幼稚園を參觀する人は、たゞ一寸這入つて見たゞけでは、何の目的で、何をしてゐるのか解らない、しかし、注意深く、熱心に見れば、在來の保育法と如何に違つた影響を子供に與へてゐるか解るであらう」と申して居ります、實際子供の自由選擇にまかせると云ふ方法に依れば在來の『お膳だて保育』の様に保育室が整頓して居ると云ふ事は望まれない事でせう。